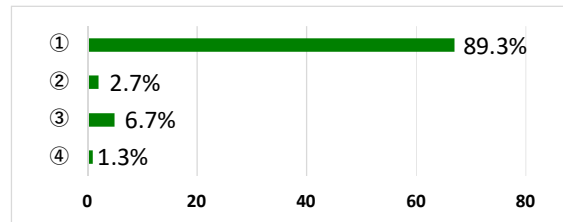


令和6年度 就職慣行等に関するアンケート調査（学校関係者）①

【調査概要】

- ◆対象者 : 就職希望者が一定数以上の千葉県内高等学校の進路指導主事及び進路指導就職担当
- ◆回答者数 : 75人

学校関係者の立場として、「一人一社制」についてどのように考えるか	
① 現行の制度のままで良い	67人
② 9月中から卒業まで2社応募できた方が良い	2人
③ ③9月中から卒業まで数の制限なく応募できた方が良い	5人
④ その他	1人



- ・①の現行の一人一社制を支持する回答が全体の89.3%となりました。

①を選択した回答者においても、一人一社制のデメリットとして「結果が出るのに時間がかかる企業の場合、結果を待っていると次の応募ができなくなる。」、「応募先をなかなか1社に絞りきれない生徒がいる。」と認識しているとの回答も一部見受けられましたが、全体としては一人一社制の継続を支持するとした回答割合が高い結果となりました。

- ◆下記に、主な選択理由と、いただきましたご意見から一部を引用して記載しております。

①選択理由

- ・生徒にとって一社だけでも応募書類の作成、企業研究、面接練習と学業の両立は負担が大きい。
- ・複数社内定した生徒の内定辞退により、企業との信頼関係が崩れてしまいかねない。
- ・複数社受験を可能にすることで倍率が上がり、1回目の試験の不合格者も増え就職活動の期間が長期化する。
- ・最初から複数応募可とすると、内定を複数得る生徒と、内定をもらえない生徒と二極化する。
- ・会社とのやりとりが増えることで進路指導部の職員の業務量も増え、その結果、連絡を漏らしてしまうなどの進路事故につながるおそれがある。
- ・初回が第1希望のみとなることで企業に対して生徒の就職への熱意が伝わりやすくなる。

②選択理由

- ・生徒が企業を知る機会を妨げている。
- ・第二希望以降の企業を同時に応募することができ安心できる。

③選択理由

- ・生徒が企業を知る機会を妨げている。
- ・第二希望以降の企業を同時に応募することができ安心できる。
- ・応募先をなかなか1社に絞りきれない生徒がいる。
- ・本来、何社受けるかについては生徒の自由。